

キャンプファイヤー キャンドルのつどい 実施マニュアル

福岡県立社会教育総合センター
体験活動推進班

キャンプファイヤー・キャンドルのつどいについて

< 活動時間(目安) >

およそ60～120分間

※夜の活動 19:00～21:00の間で実施可能

< 実施会場の収容人数 >

キャンプファイヤー		キャンドルのつどい	
場 所	人 数(約)	場 所	人 数(約)
たけのこ広場	～200人	体育館	～200人
あじさい広場	～100人	講堂	～100人
野外劇場	～50人	プレイホール	～50人

< 活動上の留意点 >

- 「火」の取り扱いには十分お気をつけください。
- 「消火」「道具等の片付け」まで、団体で責任をもって実施をお願いします。
- 開始時、終了時には必ずセンター職員までご連絡ください。
- 「キャンプファイヤー」は「雨天」、晴天時でも「強風」の場合は実施できません。荒雨天時の活動の準備もお願いします。

< 実施団体が準備するもの >

キャンプファイヤー	キャンドルのつどい
☐ 料金 キャンプファイヤーセット ￥3,500	☐ 料金 キャンドルのつどいセット ￥950
☐ 「交歓のつどい」に必要なもの	☐ 「交歓のつどい」に必要なもの
☐ 火器（マッチ、ライター等）	☐ 火器（マッチ、ライター等）
☐ トーチ（必要数）	
☐ 軍手	

※ 令和4年度より、セット購入団体のみの実施となりました。ご了承ください。

※ キャンドルのつどいで、全員でロウソクを持つ際のロウソクは、各団体でご準備ください。

< センターが提供するもの >

キャンプファイヤー		キャンドルのつどい	
☐ 薪×3束	☐ 枕木	☐ 燭台	☐ ロウソク（必要数）
☐ 消火用バケツ	☐ スコップ	☐ ロウソク受け（最大10個まで貸出可）	
☐ 火の神衣装一式	☐ CDラジカセ	☐ 火の神衣装一式	☐ CDラジカセ
☐ マイク 等	☐ 灯油	☐ マイク 等	

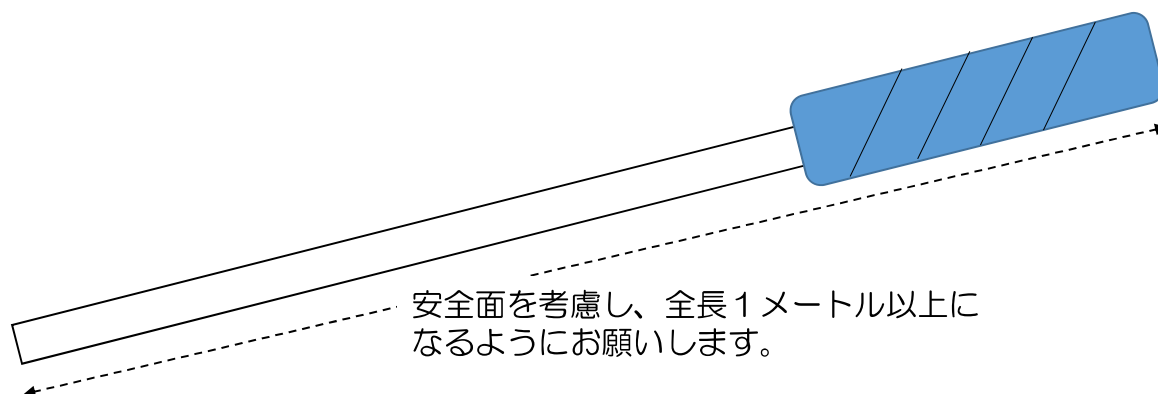
※ セット内容を含みます。

その他、要望に応じて、用具等、貸し出しできます。事前にご相談ください。

< キャンプファイヤー・「トーチ」の作り方 >

① 材料の準備をする。

- ☐ 生木などの燃えにくい棒（1m以上） ☐ タオルなどの布（綿製が望ましい）
☐ 針金



② 上の図のように、棒に布を巻き付けます。（20cm程）

使用する布が化学繊維の場合、燃える時に炎が垂れてしまい、大変危険です。
「綿」を多く使った布を使いましょう。

③ 布を棒に固定するために、しっかりと針金を巻き付け、完成です。

※ 例えば、センター案で実施の場合、火の神用1本、火の守用8本の計9本のトーチが必要となります。団体の実態等に合わせた実施案に合わせて、ご用意ください。

活動の流れ（キャンプファイヤー展開例）

①役割分担例（あくまで一例です。団体の実態に応じて役割分担をお願いします。）

役 割 名	人数（人）	内 容
火の司	1	プログラム全体の司会進行をします。
営火長	1	つどいの責任者で、始まりと終わりに言葉を述べます。
火の神	1	「迎火のつどい」で、火を掲げて入場します。
火の守	4～8	分火したトーチを掲げ、誓いの言葉を述べます。
献詩係	1～2	「迎火のつどい」で、詩の朗読をします。
音響係	2	プログラムに合わせて音響・照明を担当します。
会場係	10	まき組みや後片付けをします。
ファイヤーキーパー	2	火勢の保持につとめます。（大人推奨）

②当日の事前準備

※当センター職員が支援します。上記「会場係」の児童生徒と指導者1～2名程度での実施が望ましいですが、指導者2～3名での実施でも構いません。

- ① 枕木、薪の組み立て
- ② トーチ、灯油、防火バケツ、使用機器等の準備
- ③ 衣装等の受け取り
- ④ リハーサルの実施 等

③ つどいの展開

◎「開始」の報告

⇒点火前に必ず事務室へ連絡をしてください。
内線（117） / 外線（092-947-3511）

【第1部】迎火のつどい（約30分間）

次 第	役 割	言 葉 ・ 動 き 等
○全体入場	全 員	火床を中心に円になる
	火の神	衣装に着用し、用意しておく
1 火の神入場	火の司	「ただいまより、〇〇（団体名）キャンプファイヤーを行います。火の神が若杉山から聖なる火を持って入場しますので、静かに見つめてください。」
	音響係	『遠き山に火は落ちて』歌なし曲を流す
	火の神	静かに入場し、火床と参加者の間を一周し、営火長の横につく
	音響係	火の神入場完了したら、音楽を止める
2 営火長はじめの言葉	火の司	「それでは、営火長よりはじめの言葉をお願いします。」
	営火長	「今、ここに皆さんの友情と団結のために聖なる火を迎えました。火は遠い昔から私たちに生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は私たちの生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることになるのです。しかし、この偉大な火も使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。」 (右ページへつづく)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
2 営火長はじめの言葉	営火長	(左ページより)「今、ここに燃える火は、ここに集う私たちに、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。また、このつどいが一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、楽しい思い出となるように祈りつつ、このつどいを開きます。」
3 火の守へ分火誓いの言葉	火の司	「それでは、火の神から火の守へ分火してもらいます。火の守は、火の神の前に整列しましょう。」
	火の守	火の神の前に移動し、整列する。
	火の司	「分火」
	火の神	一人一人順序良く、火の守へ分火していく。 ※分火→火の守の誓いの言葉→次の人へ分火・・・を繰り返す。
	火の守A	わたしはこの火に「友情」を誓います。
	火の守B	わたしはこの火に「たえず努力すること」を誓います。
	火の守C	わたしはこの火に「尊敬する心を持つこと」を誓います。
	火の守D	わたしはこの火に「みんなと協力すること」を誓います。
	火の守E	わたしはこの火に「希望をもつこと」を誓います。
	火の守F	わたしはこの火に「助け合いの心」を誓います。
	火の守G	わたしはこの火に「思いやりの心」を誓います。
	火の守H	わたしはこの火に「家族を大切にすること」を誓います。
	火の司	「火の神より火の守へ分火されました。火の神と火の守は火床のまわりに移動しましょう。」(次ページへ)

次 第	役 割	言 葉・動 き 等
4 点火	火の神 火の守	等間隔に広がりながら、火床を囲むように、また、火床に向かって配置につく
	火の司	「引き続き、火の神、火の守によって中央の火床に点火をお願いします。」(少し間をとって)「点火」
	火の神 火の守	「点火」の合図で、トーチを火床に立てかけるように乗せる <u>※置いたら、すぐに下がること</u>
5 献詩と合唱	火の司	「火床に炎がともりました。皆さんが誓った思いとともに輝いています。炎を見つめながら、詩の朗読を静かに聴いてください。」
	献詩係	献詩係は前に出る。 「営火は燃える 赤々と燃え まっすぐに燃え 勇気を出せと励ます」 「営火は燃える ゆらゆらと燃え 招くように燃え 豊かであれと励ます」 「営火は燃える 踊るように燃え 舞うように燃え 輪を広げようと励ます」 「私を支える営火の火は いつまでも闇を照らし 今が本番だと教える 人生には リハーサルがないと教える 私は何時間でも この火を見つめる」
	火の司	「さあ、みなさん。この火がずっと燃え続けることを祈って、『燃えろよ 燃えろ』を歌いましょう。」
	音響係	『燃えろよ 燃えろ』の曲をかける
	全員	『燃えろよ 燃えろ』の歌をうたう
6 第一部 完	火の司	「これで、第一部 迎火のつどいを終わります。さあ、第二部はみんなで楽しい時間を過ごしましょう。」

【第2部】交歓のつどい(約50～60分間)

※子どもたちが考えたゲームやスタンプなどを行い、楽しい時間を過ごし、友情を深めましょう。

【第3部】送火のつどい（約15分間）

次 第	役 割	言 葉 ・ 動 き 等
○全員集合 整列	全 員	火床を中心に円になる
	営火長	火床の前に出てくる
1 はじめ の言葉	火の司	「とても楽しいひとときでしたね。しかし、もう夜も深くなってきました。そろそろ私たちを照らしてくれたこの炎ともお別れをしましょう。第3部 送火のつどいを始めます。」
2 営火長の 言葉	火の司	「それでは、営火長より終わりの言葉をお願いします。」
	営火長	「大勢の友達が一つの光を中心にして、歌ったり踊ったりして、打ち解け合い、楽しく過ごしたこの時間の思い出は、皆さんにとって忘れられないものとなることでしょう。この火は消えても、いつまでも皆さんの心の中に誓いの炎を燃やし続けて、一緒に過ごした仲間を思い出してください。」
3 終わりの 言葉	火の司	「以上をもちまして、〇〇（団体名）のキャンプファイヤーを終わります。」

- 上記の一連の展開は、あくまで一例です。これを元に指導者が展開や進行、言葉などを立案、計画して、実施してください。
子どもたちと共に「全体の流れ」を計画して、子どもたち主導で各つどいを進行することも考えられます。
- 「第3部」は、「振り返る時間」として最適です。営火の周りに、グループごとに集まって、一日を振り返り、明日につなぐ時間を設定することをおすすめします。

④ 後片付け

【火床の片付け】

- 1 火床の確認
→ 薪はほとんど燃やし尽くすようにお願いします。
- 2 火床の消火
→ 炭を所定の場所(炭置き場)に移動した上で、炭置き場に水をかける。
- 3 「終了」の報告／用具等の返却
→ 終了時には必ず事務室へご連絡ください。
- 4 火床台車の片付け
→ 終了後すぐは、台車は熱くなっています。翌朝、つどいの前までに片付けをお願いします。

※ その後、センター職員が点検します。
片付けが不十分な場合は、ご連絡しますので、ご協力よろしくお願いします。

活動の流れ（キャンドルのつどい展開例）

※概ね「キャンプファイヤー」と流れは同じ。文言の違いがあります。

①役割分担例（あくまで一例です。団体の実態に応じて役割分担をお願いします。）

役 割 名	人数（人）	内 容
火の司	1	プログラム全体の司会進行をします。
火の長	1	つどいの責任者で始まりと終わりに言葉を述べます。
火の女神	1	メインキャンドルの入退場や火の守への分火を行います。
火の守	4～8	分火された火を燭台に移し、誓いの言葉を述べます。
献詩係	3	「迎火のつどい」で、詩の朗読をします。
音響係・照明係	2	プログラムに合わせて音響・照明を担当します。
会場係	10	まき組みや後片付けをします。

②当日の事前準備

※当センター職員が支援します。上記「会場係」の児童生徒と指導者1～2名程度での実施が望ましいですが、指導者2～3名での実施でも構いません。

- ① 燭台、ロウソクの設置
- ② ロウソク受け、使用機器等の準備
- ③ 衣装等の受け取り
- ④ リハーサルの実施 等

③ つどいの展開

◎「開始」の報告

⇒点火前に必ず事務室へ連絡をしてください。

内線（117） / 外線（092-947-3511）

【第1部】迎火のつどい（約30分間）

次 第	役 割	言 葉 ・ 動 き 等
○全体入場	全 員	燭台を中心に円になる
	女神	衣装に着用し、用意しておく
1 火の女神入場	火の司	「ただいまより、〇〇（団体名）キャンドルのつどいを行います。火の女神が聖なる火を持って入場しますので、静かに見つめてください。」
	音響係	『遠き山に火は落ちて』歌なし曲を流す
	女神	静かに入場し、燭台と参加者の間を一周し、火の長の横につく
	音響係	女神入場完了したら、音楽を止める
2 火の長はじめの言葉	火の司	「それでは、火の長よりはじめの言葉をお願いします。」
	火の長	「今、ここに皆さんの友情と団結のために聖なる火を迎えました。火は遠い昔から私たちに生きる喜びや勇気を与えてくれました。火は私たちの生命でもあります。火を大切にすることは、自分を守ることになるのです。しかし、この偉大な火も使う人の心により、人類を闘争と破壊へと導くことにもなります。火を大切に使う心を忘れてはいけません。」 (右ページへつづく)

次 第	役 割	言 葉 ・ 動 き 等
2 火の長はじめの言葉	火の長	(左ページより)「今、ここに燃える火は、ここに集う私たちに、大きな勇気と自信を与えてくれるものと信じます。また、このつどいが一人一人の心の奥深く、いつまでも美しく、楽しい思い出となるように祈りつつ、このつどいを開きます。」
3 火の守へ分火誓いの言葉	火の司	「それでは、火の神から火の守へ分火してもらいます。火の守は、火の神の前に整列しましょう。」
	火の守	火の神の前に移動し、整列する。
	火の司	「分火」
	女神	一人一人順序良く、火の守へ分火していく。 ※分火→火の守の誓いの言葉→次の人へ分火・・・を繰り返す。
	火の守A	わたしはこの火に「友情」を誓います。
	火の守B	わたしはこの火に「たえず努力すること」を誓います。
	火の守C	わたしはこの火に「尊敬する心を持つこと」を誓います。
	火の守D	わたしはこの火に「みんなと協力すること」を誓います。
	火の守E	わたしはこの火に「希望をもつこと」を誓います。
	火の守F	わたしはこの火に「助け合いの心」を誓います。
	火の守G	わたしはこの火に「思いやりの心」を誓います。
	火の守H	わたしはこの火に「家族を大切にすること」を誓います。
	火の司	「火の神より火の守へ分火されました。火の神と火の守は燭台のまわりに移動しましょう。」(次ページへ)

次 第	役 割	言 葉 ・ 動 き 等
4 点火	女神 火の守	等間隔に広がりながら、火床を囲むように、また、燭台に向かって配置につく
	火の司	「引き続き、火の神、火の守によって中央の燭台に点火をお願いします。」(少し間をとって)「点火」
	女神 火の守	「点火」の合図で、燭台のロウソクに火をつける
5 献詩	火の司	「火床に炎がともりました。皆さんが誓った思いとともに輝いています。炎を見つめながら、詩の朗読を静かに聴いてください。」
	献詩係	献詩係は前に出る。 「キャンドルは燃える 赤々と燃え まっすぐに燃え 勇気を出せと励ます」 「キャンドルは燃える ゆらゆらと燃え 招くように燃え 豊かであれと励ます」 「キャンドルは燃える 踊るように燃え 舞うように燃え 輪を広げようと励ます」 「私を支えるキャンドルの火は いつまでも闇を照らし 今が本番だと教える 人生には リハーサルがないと教える 私は何時間でも この火を見つめる」
	女神 火の守	持っているロウソク受けのロウソクの火を消し、片付ける
6 第一部 完	火の司	「これで、第一部 迎火のつどいを終わります。さあ、第二部はみんなで楽しい時間を過ごしましょう。」

【第2部】交歓のつどい(約50～60分間)

※子どもたちが考えたゲームやスタンプなどを行い、楽しい時間を過ごし、友情を深めましょう。

【第3部】送火のつどい（約15分間）

次 第	役 割	言 葉 ・ 動 き 等
○全員集合 整列	全 員	燭台を中心に円になる
	火の長	燭台の前に出てくる
	女神	女神用のろうソクをもち、火の長の横につく
1 はじめ の言葉	火の司	「とても楽しいひとときでしたね。しかし、もう夜も深くなってきました。そろそろ私たちを照らしてくれたこの炎ともお別れをしましょう。第3部 送火のつどいを始めます。」
2 火の長 の言葉	火の司	「それでは、営火長より終わりの言葉をお願いします。」
	火の長	「このつどいで歌ったり踊ったりして、打ち解け合い、楽しく過ごしたこの時間の思い出は、皆さんにとって忘れられないものとなることでしょう。キャンドルの火の一つ一つは小さいけれど、5本、10本、数十本と集まると同じ目的に向かって、がっちりと手を取る灼熱の炎ともなります。人もまた一人一人は小さいですが、多くの人と手を取り合うことで、大きな力を発揮することができます。この光は皆さんの心に灯され、友情の火として明るく輝き、育てられることでしょう。いつまでも皆さんの心の中にこの火を燃やし続けて、一緒に過ごした仲間を思い出してください。皆さんの幸福と健康を願いつつ、このつどいを終わります。」
	火の司	「女神が退場します。ろうソクの火を見つめながら、静かに見送りましょう。」
	女神	燭台の火を自分のろうソクに移し、燭台と参加者の間を一周し、退場する
3 終わりの 言葉	火の司	「以上をもちまして、〇〇（団体名）のキャンドルのつどいを終わります。」

- 一連の展開は、あくまで一例です。これを元に指導者が展開や進行、言葉などを立案、計画して、実施してください。
子どもたちと共に「全体の流れ」を計画して、子どもたち主導で各つどいを進行することも考えられます。
- 「第3部」は、「振り返る時間」として最適です。営火の周りに、グループごとに集まって、一日を振り返り、明日につなぐ時間を設定することをおすすめします。

④ 後片付け

【燭台の片付け】

- ろうソクの消火
- 用具の回収
→ ろうソクやろうソク受けなど、しっかり数を確認してください。
- 落ちた ろうの清掃、燭台の片付け
→ 燭台や床に垂れたろうの清掃をお願いします。
燭台を元の場所に返却してください。
- 「終了」の報告／用具等の返却
→ 終了時には必ず事務室へご連絡ください。

※ その後、センター職員が点検します。
片付けが不十分な場合は、ご連絡しますので、ご協力よろしくお願いします。